大学生協事業30年間の展開過程の検討

～個別大学生協の経営業績経年変化を可視化して～

仲田　秀

法政大学大学院政策科学研究科

博士後期課程2014年度満期　修了

大学生協は極めて規模の小さい、それぞれの大学の特徴に規定された職域生協の一つに分類される。大学生協が今後持続的に発展するためには、個別大学生協の経営数値の安定性（高経営業績）が必要であるし、高経営業績を生み出すための組織要件を明らかにすることが肝要である。このことは、経営の安定しにくいNPOの経営改善へのヒントにもなっていくであろう。筆者は個別大学生協について、経営状況とその時代環境を、その組織がいかに主体的に受け止めているかということに検討を加えてきた（仲田.2016, 仲田 2017）。

全国大学生協連に集積している経営状況の数字は、「大学生協経営資料」の名称で機関誌の一種として各経営担当者に共有されてきた。筆者は長年組織関係の仕事に携わる間、その数値を補助的にしか、検討することはなかった。しかし、経営状況は、事業体としての大学生協を構成する組合員の様々な生活に影響するものであり、組合員の組織への参加の仕方によって変化すると考えられる。

筆者のその経験をふまえ、「大学生協経営資料」の中の個別の経営状況を、経年で可視化し、供給規模、種別（国公立・私立）の組織状況との関係を検討することによって、「経営状況と組織状況の関係」を明らかにし、組合員の主体的な経営参加に資することができると考えた。

今回は「経営状況と組織状況の関係」を検討する前段として、数値分析の部分を個別論題にしている。個別大学生協の経営業績を経常剰余率のABCDE　5段階評価とした。それと累積欠損金の供給高に対する割合を1生協1列の一覧によって可視化し、その経年変化について、供給高規模、国公立・私立の種別の 12 分類によって、分類毎の時代的変化の特徴を検討する。そして、大学生協における累積欠損金の増加とその克服の過程を経常剰余率との関係で辿りまとめた（仲田 2014）。

参加者各位の講評をお願いする。

参考・引用文献（ABC順）

仲田秀　「大学生協事業30年間の展開過程--大学生協別経年変化を通して」『法政大学大学院紀要』第73号、2014.10、P177-197

仲田秀　「大学生協事業における高経営業績と組織状況の関係」『法政大学大学院紀要』77号、2016.10、P91-116

仲田秀　「大学生協の持続的発展について--大学生協における理事会のリーダーシップと経営業績」『法政大学大学院紀要』第78号、2017.3、P69-89

全国大学生活協同組合連合会　『大学生協経営資料』18,1981～同　50.51 2011